

採点基準 英語

【1】-A (10点満点)

<設問指示>

以下の英文を読み、その内容を70～80字の日本語で要約せよ。句読点も字数に含める。

<解答例1>

個人が幅広い経験を積みにくい現代では、才能ある人は増えたが天才は減っている。知識が拡大するにつれて専門化が進み、独創性が成果を出すまでには④時間がかかるようだ。(79字)

<解答例2>

知識が増え専門化が進んだ今日、才能を示す専門家は増えたが、幅広い経験が必要な天才は減っている。独自性は結実に時間を要し、模倣的・反復的な仕事のほうが報われる。(79字)

- ① 「21世紀の初めにあって、才能がある人は増加し、**天才は減少している**ようである」
 - ・ In the early 21st century, talent appears to be on the increase, **genius on the decrease**.
 - ▶ 「**天才は減少している**」(**genius on the decrease**)に相当するものがないものは**2点減点**。
- ② 「**知識が進歩する**につれ、領域が継続的に拡大するため、個人が研究できる割合は全体に対して小さくなっていく」
 - ・ ... as **knowledge** continues to **advance**, an individual will have the time to investigate a smaller and smaller proportion of the horizon because the field will continually expand.
 - ▶ 「**知識が進歩する**」(**knowledge ... advance**)に相当するものがないものは**2点減点**。
- ③ 「天才が幅広い知識と経験を必要とするとしたら、知識が進歩するにつれてそれは達成が困難になるようだ。**高まり続ける職業化と専門化は否定できない**」
 - ・ So, if 'genius' requires breadth of knowledge then it would appear to become harder to achieve as knowledge advances. The ever-increasing professionalization and **specialization** of education and domains, especially in the sciences, is undeniable.
 - ▶ 「**専門化が進む**」(**specialization**)に相当するものがないものは**2点減点**。
- ④ 「真の**独創性**は、成果が出るまでに**時間を要する**」
 - ・ True **originality** takes at least ten years to come to fruition; the results may take further time to find their audience.
 - ▶ 「**独創性**」(**originality**)に相当するものがないものは**2点減点**。
 - ▶ 「**時間を要する**」(**takes at least ten years to come to fruition/take time**)に相当するものがないものは**2点減点**。

1. 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。

2. 字数制限を満たさないものは0点。

【2】－A (12点満点)

【設問】

「昨今、タイムパフォーマンス(時間対効果 time efficiency)を重視する風潮があるが、これについてあなたはどうか考えるか。理由を添えて、60～80語の英語で述べよ。

【解答例1】 Our tendency to emphasize time efficiency is a natural response to our rapidly evolving world. The ever-accelerating technological progress demands a broader set of skills, which we have to acquire in the limited time frame. Besides, the constant influx of information, from news updates to social media trends, requires us to manage our time effectively to keep up with what's going on around us. We just can't help feeling we'll be left out unless we are time efficient. (78語)

(時間対効果を重視する傾向は、急速に進化する世界に対する自然な反応である。加速し続ける技術の進歩は幅広い技能を必要とし、それは限られた時間の中で身につけなければならない。その上、ニュースの最新情報からソーシャルメディアの流行に至るまで、情報が絶え間なく押し寄せてくるので、私たちは身の回りで起こっていることに遅れないよう、時間を効果的に管理することが求められている。時間対効果を上げなければ、取り残されてしまうような気がしてならない)

【解答例2】 In order to make good use of our limited time, it's important to consider time efficiency. And the awareness leads us to change our ways. Many people seem to prefer getting some information from watching YouTube, for example, but in fact, reading printed material is often a much faster way to get the same amount of information. Thus, it sometimes takes skills to become time efficient, but it's worth the effort. (71語)

(我々の有限な時間をうまく活用するためには、タイムパフォーマンスを考慮することが重要である。そして、それを意識することは我々のやり方に変化をもたらす。多くの人が例えば YouTube を見ることで一部の情報を手に入れるのを好んでいるようだが、実際、同じ量の情報を得るには印刷物で読むほうがずっと速い方法であることが多い。だから、タイムパフォーマンスを高めるには技術を要することもあるが、努める価値はある)

【解答例3】 It is regrettable that we often prioritize time efficiency in all aspects of our lives. While increased productivity is undoubtedly beneficial in many cases, it is essential to recognize that not everything should be rushed. Some experiences, such as enjoying movies or music, require time to appreciate fully. Rushing through them, skipping their parts, or speeding them up invariably diminishes the quality of our enjoyment. (65語)

(残念なことに、私たちは生活のあらゆる場面で時間対効果を優先しがちだ。生産性を高めることは多くの場合有益であることは間違いないが、すべてを急ぐべきでないことを認識することが不可欠だ。映画や音楽を楽しむような経験には、十分に味わうための時間が必要なものもある。それらを急いだり、部分的に飛ばしたり、速度を上げたりすると、楽しみの質は必ず低下する)

【解答例4】 There are some sorts of art that require the audience's involvement in the processes of development. Listening to music or reading novels certainly takes some time and energy and may not be time efficient, but on the other hand, what's the point of reducing an exciting piece of music into a set of chords, or a bloodfreezing horror story into a few pages of synopsis? (65語)

(展開の過程で読み手や聴き手の関与を必要とするたぐいの芸術が存在する。音楽を聴いたり、小説を読んだりするには、確かに時間やエネルギーが必要であり、タイムパフォーマンスは高くないかもしれないが、他方で刺激的な音楽1曲を一式のコードへ、血の凍るようなホラーの物語を数ページのあらすじへと減らすことに何の意味があるというのか)

1. 文法・語法・構文・綴りの誤りは1箇所につき2点減点。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限（60～80語）を満たさないものは0点。
3. 内容面で下記に該当するものは、それぞれ該当の点数を減点。

ポイント1 time efficiency（時間対効果）

- * 「タイムパフォーマンス」は「コストパフォーマンス」（費用対効果）から派生した和製英語。
（かけた時間に比して効率が良い[悪い]と思う場合「タイムパフォーマンスが良い[悪い]」と言う）
- * time efficiency に無関係なものは**4点減点**。
- * time efficiency の誤解は**4点減点**。
- * 「時間対効果／労力と時間の効率の良さ[悪さ]」について述べていても time efficiency（または time efficient）がないものは**2点減点**。
- * time performance としているものは**2点減点**。

ポイント2 「これについてあなたはどうか考えるか。理由を添えて」

- * 「これについてあなたはどうか考えるか」に対する答えになっていないものは**4点減点**。
- * time efficiency（時間対効果）について述べていれば、自分の考えを述べていると見なす。
- * 宗教・政治信条に関わる記述は、内容が間違っているとしても社会通念に反するものであっても減点しない。（下記ポイント3においても同様）

ポイント3 理由

- * 理由がないものは**4点減点**。
- * 論旨が一貫していないと採点者が判断できるものは**4点減点**。（簡単なコメントを付記）
- * 語数を増やすため設問とは無関係なことを述べて脱線しているものは、その部分を**6点減点**。

【2】－B (10点満点)

<設問指示>

以下の下線部を英訳せよ。

<解答例1>

In fact, the application just picked out two keywords, “nearby” and “Italian” to process, directing us to the same restaurants both times. It just didn’t bother to interpret the meanings of “good” and “bad.”

(実は、そのアプリは「近くに」と「イタリア (料理) の」という 2 つのキーワードを拾い出して処理しただけで、2 回とも同じレストランに行くよう我々に示していたのである。「おいしい」と「まずい」の意味を解釈する手間をかけなかっただけなのだ)

<解答例2>

What the app is doing here is picking up only two keywords, “nearby” and “Italian,” and processing these two words to provide the same list of restaurants. It is not taking words like “good” or “bad” into consideration.

(そのアプリがここでしているのは、「近くに」と「イタリア (料理) の」という 2 つのキーワードだけを拾い上げて、これらの 2 語を処理して同じレストランのリストを提供することである。それは「おいしい」や「まずい」などの言葉を考慮していないのである)

【英訳箇所】

後日、彼ら[ホテルに設置された AI ロボット]とのやりとりについて国立情報学研究所の新井紀子教授に確認してみると、「その程度のことはさんざん研究されています。どこにでもある技術ですよ」と(中略)スマホを取り出して実演してみせてくれた。アプリを起動し、「この近くのおいしいイタリア料理の店は？」と声をかけると画面にリストが出る。「この近くのまずいイタリア料理の店は？」と訊いても出てくるのは同じリスト。つまり拾われるキーワードは「この近く」と「イタリア料理」のふたつだけで、ふたつを処理すると同じ店になる。「おいしい」や「まずい」などの意味はスルーしているのだ。

「仕組みを知らないご高齢の方などはよく感心されるんです」

と新井教授。デジタルデバイド (情報格差) とはこのことか。

1. 文法・語法・構文・綴りの誤り、不適切な訳語…すべて 1 箇所につき 2 点減点。同じ誤りでもすべて減点。
2. 以下の①～⑤の区分に指定の得点を配分。

配点	区分
① 2 点	「つまり拾われるキーワードは～で」
② 2 点	『この近く』と『イタリア料理』のふたつだけ
③ 2 点	「ふたつを処理すると同じ店になる」
④ 2 点	『おいしい』や『まずい』などの意味
⑤ 2 点	「～はスルーしているのだ」

【4】－B（ア）（4点満点）

<設問指示>

以下の英文を読み、下線部（ア）を和訳せよ。

<解答例1>

あるテーブルに関して、どちらへ転ぶかわからないという事実も、接客業のやりがいと面白みの一部である。

<解答例2>

ある特定のテーブルにおいてどう事が運ぶかを知る手立てが一切ないという事実は、給仕のやりがいと刺激の一部である。

【(ア) 和訳箇所】

The fact that there is no way of telling which way it's going to go with a particular table is part of the challenge and excitement of waiting.

次の区分に分けて配点する。

配点	該当箇所と盛り込むべき内容
① 1点	The fact that ... is ~ 「...という事実は～である」
	×The fact(S) is(V)のSV関係がわかっていないものは不可。 ×thatが同格の接続詞だとわかっていないものは不可。
② 1点	there is no way of telling ~ 「～がわかる方法はない」
	×次の項目 which ~ table が telling の目的語だとわかっていないものはこの項目で減点。
③ 1点	which way it's going to go with a particular table 「特定のテーブルに関してどちらの方向に行くのか」
	×この部分が名詞節だとわかっていないものは不可。 ×a particular の「独特の/特別な/特有の」は不可。
④ 1点	part of the challenge and excitement of waiting. 「給仕のやりがいと興奮の一部」
	×waiting の訳は「待つこと」は不可。

【4】－B (イ) (4点満点)

<設問指示>

以下の英文を読み、下線部 (イ) を和訳せよ。

<例1>

それは仕事の上出来だったという確証を得るひとつの方法である。

<例2>

それは上出来な仕事だったと確認する一つの方法である。

【(イ) 和訳箇所】

It's a way of getting affirmation for a job well done.

次の区分に分けて配点する。

配点	該当箇所と盛り込むべき内容
① 1点	It's a way of ~ 「それは～のひとつの方法である」
	×It/way の欠如は不可。
② 2点	getting affirmation for ~ 「～に対する確認を得ること」
	×getting が動名詞だとわかっていないものは不可。
③ 1点	a job well done 「うまくなされた仕事」
	×done が過去分詞で well done が job にかかる形容詞句だとわかっていないものは不可。 ×getting 以下を使役動詞 (VOC) と捉え、getting O done と訳出したものは、 3点減点 。

【4】－B（ウ）（4点満点）

＜設問指示＞

以下の英文を読み、下線部（ウ）を和訳せよ。

＜解答例1＞

良くも悪くも客たちは、ウェイターがテーブルに近づいた瞬間、時にはそれ以前に、何らかの 카테고リーに分類されているのだ。

＜解答例2＞

善かれ悪しかれ、ウェイターがテーブルに近づくとすぐ、時にはさらに早い段階で、顧客は瞬時に分類されるのである。

【(ウ) 和訳箇所】

For better or worse, customers are instantly categorized as soon as the waiter approaches the table —sometimes even earlier.

次の区分に分けて配点する。

配点	該当箇所と盛り込むべき内容
① 1点	For better or worse 「善かれ悪しかれ」
	×「良いのか悪いのか」は不可。 ×文全体にかかる副詞句だとわかっていないものは不可。
② 1点	customers are instantly categorized 「客は瞬時に分類される」
	×customers(S) are categorized(V)のSV関係がわかっていないものは不可。 ×「カテゴライズされる」は不可。 ×customers/categorizedの欠如は不可。
	as soon as the waiter approaches the table 「ウェイターがテーブルに近づくやいなや」
③ 1点	×as soon asが接続詞句だとわかっていないものは不可。 ×approachesに「アプローチする」は不可。
	— sometimes even earlier 「時にはそれよりもさらに早く」
④ 1点	×付加的説明の副詞句だとわかっていないものは不可。 ×sometimesの欠如は不可。 ×earlierが比較級の副詞だとわかっていないものは不可。

【5】－(A) (4点満点)

<設問指示>

下線部 (A) を和訳せよ。

<例1>

私の間違いは批評家に対してその点を指摘したのではなく、それを話しながら思わず熱狂的な目つきをしてしまったことにある。

<例2>

私の過ちは、このことを批評家に指摘したのではなく、指摘したときに、自分の目の中に熱狂的な興奮のようなものを見せてしまったことである。

【下線部・該当箇所】

My mistake was not in pointing this out to the critic but in allowing a sort of wild excitement to show in my eyes as I did so.

次の区分に分けて配点する。

配点	該当箇所と盛り込むべき内容
① 2点	My mistake was not in pointing this out to the critic but in ~ 「私の間違いは批評家にこれを指摘したのではなく～ [こと] にあった」
	× not A but B の構文がわかっていないものは不可。
② 2点	allowing a sort of wild excitement to show in my eyes as I did so 「私がそれをした時に一種の狂気じみた興奮が目の中に表れるのを許したこと」
	× allow O to do (O が～するのを許す) の構文がわかっていないものは不可。 × as I did so の欠如は不可。

【5】－(C) (4点満点)

<問題>

下線部 (C) について、予想される息子の返答とその理由とを日本語で説明せよ。

<解答例1>

父親の刀鍛冶へのインタビューに大人しく付き合ったうえに、刀剣博物館になど行きたくはない。

<解答例2>

刀剣博物館に興味はないし、父の用事に付き合ったのだから、今度は自分が好きなところへ行く番だ。

【下線部・該当箇所】

I knew the answer.

【基準・配点】

- 1) 字数制限なし。
- 2) 次の (1) (2) が必須項目。

(1) 「刀剣博物館に行きたくない」(予想される息子の返答) に相当するもの (これがないものは**2点減点**)

- 「刀剣博物館に興味はない」は「刀剣博物館に行きたくない」と認める。
- 「秋葉原に行きたい」は「刀剣博物館に行きたくない」と認める。
- × 「いやだ」「行きたくない」だけでは「刀剣博物館に行きたくない」と認めない。

(2) 「**インタビュー**に付き合ったから」(その理由) に相当するもの (これがないものは**2点減点**)

- 「父親の用事に付き合った」は「インタビューに付き合ったから」と認める。
- 「インタビューの間辛抱強く待った」は「インタビューに付き合ったから」と認める。
- 「次は自分が行きたいところへ行く番だ」は「インタビューに付き合ったから」と認める。
- 「タカシと秋葉原で待ち合わせている」は「インタビューに付き合ったから」と認める。